

# 平成28年度岩手県教育研究発表会 《いきる ・ かかわる ・ そなえる》

大槌町・小中一貫教育「ふるさと科」の推進  
～復興教育と防災教育の推進～



大槌町立吉里吉里中学校  
教諭 平田 善一

# 本日の発表内容

## 1 学園紹介

- ・小中一貫教育の柱 「ふるさと科」
- ・学園のまなびフェスト 4つの重点

## 2 吉里吉里学園中学部「ふるさと科」の取り組み

- (1) 郷土芸能伝承活動
- (2) 防災教育 ・ 避難訓練
- (3) 復興教育副読本の活用
- (4) 防災週間
- (5) PTAワカメ体験学習

## 3 成果と課題

# 《大槌町立吉里吉里学園について》

平成27年度小中一貫教育校として開校

## 吉里吉里学園



施設分離型小中一貫教育

併設型小中一貫校



小学部 校舎



中学部校舎

# 小中一貫教育でねらうもの

すべての大槌の子どもたちに  
「豊かな育ち」と「確かな学び」を実現する!!

- 義務教育9年間の計画的・継続的な学び
- 「生きる力」「ふるさと創生」の教育
- 学校 ・ 家庭 ・ 地域の連携 ・ 協働による教育活動



小中一貫教育の柱として「ふるさと科」を創設

# 大槌町立吉里吉里学園中学部



- 中学部の生徒数 全校生徒 57名。
- 仮設住宅から通学する生徒 16名。
- 就学援助認定生徒数 30名。(被災家庭など)
- 心と体の健康観察 要サポート生徒 7名。  
(過覚醒、再体験、回避、マイナス思考)
- 震災から6年が経過したが、いずれも、いまだに多い数。
- 生徒たちはとても素直。  
学習・部活動・学校行事等に熱心に取り組んでいる。

# 吉里吉里学園 4つの重点

- ★ 「確かな学力の育成」
- ★ 「豊かな人間性の育成」
- ★ 「心身の健康の育成」
- ★ 「郷土愛の育成」



# 吉里吉里学園 「まなびフェスト」 より

## ○郷土愛の育成

「ふるさと科」で地域と連携した  
取り組みをします。



①郷土芸能伝承活動、地域産業体験活動、自然体験活動を通し地域の良さに目を向けることができる児童・生徒を育てます。

②防災教育を通して、災害時や防災に対して主体的な判断力と実践力の持った児童・生徒を育てます。

# 本校の復興教育・防災教育の目標



- 1 大槌町・ふるさと科の学習を通して、心のケアを図り、たくましく生きていこうとする力、前を向いて夢と希望を持って生きていこうとする力を育てる。
- 2 防災意識の向上を図り、自然災害の理解・防災や安全等について学習する防災教育を推進する。

## 《ふるさと科のねらい》

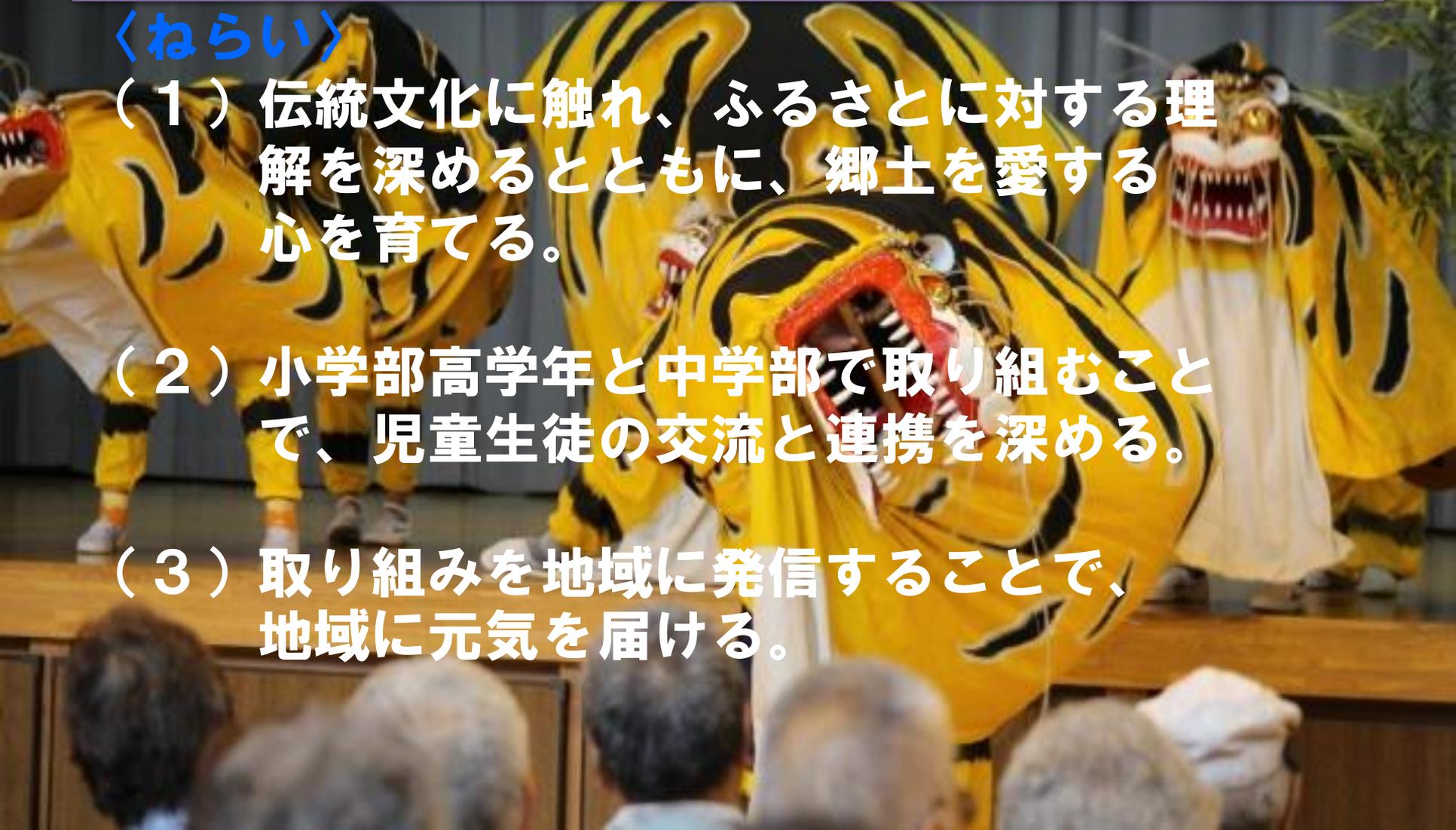
復興・防災を基盤とした「生きる力」及び「ふるさと創生」を推進し、地域や自分の生き方を見つめ、大槌町の復興発展を担う人材を育成する。大槌町の中で閉じるのではなく、町外に出て活躍する人材も育てる。

# 1学期「郷土芸能伝承活動」※15時間

3つの郷土芸能（鹿子踊り・大神楽・虎舞）

〈ねらい〉

- （1）伝統文化に触れ、ふるさとに対する理解を深めるとともに、郷土を愛する心を育てる。
- （2）小学部高学年と中学部で取り組むことで、児童生徒の交流と連携を深める。
- （3）取り組みを地域に発信することで、地域に元気を届ける。



## 《具体的な取り組み》

内 容	期 日	備 考
郷土芸能伝承活動打合せ会議	5月18日(水)	小中学部及び郷土芸能保存会で今年度計画確認
郷土芸能講話(鹿子踊り、大神楽、虎舞)、郷土芸能伝承活動計画づくり	5月24日(火)	ガイダンス、講話等
練習4回(小中合同で練習)	5月31日(火) 6月20日(月) 6月22日(水) 6月28日(火)	
発表会リハーサル(発表会の最終打合せ)	7月 5日(火)	
郷土芸能発表会	7月 6日(水)	
郷土芸能伝承活動反省(生徒個人の反省)	7月 7日(木)	

# 《郷土芸能講話を聴いての感想①》

## 【鹿子踊り】

私達が鹿子の歴史を引き継いでいく番なのかなと思った。これからも鹿子を続けていきたい。（9年）

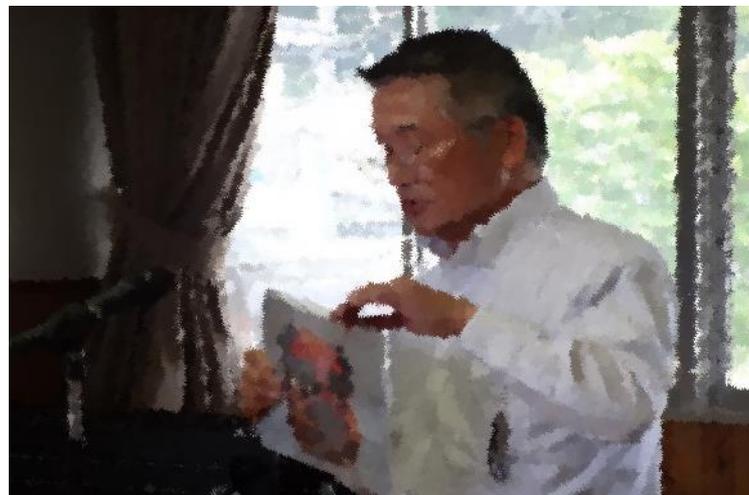


3団体そろってこそその「お祭り」と聴いて、その通りだと思った。お祭りは「使命感」という言葉が、とても印象的でした。（8年）

# 《郷土芸能講話を聴いての感想②》

## 【大神楽】

昔から伝わっていた頭が  
東日本大震災で流失してし  
まったことはとても悲しい  
気持ちになった。（9年）



吉里吉里大神楽の歴史を  
感じることができた。  
「大事な郷土芸能を絶や  
してはだめだ」という  
言葉に郷土愛を感じ、と  
ても良いと思った。  
（8年）

# 《郷土芸能講話を聴いての感想③》

## 【虎舞】

近松門左衛門の洒落で日本の「和」、中国の「唐」、どちらでもない（内）で、和藤内になったのが、初めて知った。（9年）



今はかしらの中に2人が入って踊っているけど、昔は4人で踊っていたということを知って、少しびっくりした。（8年）

# 郷土芸能 練習

- 上級生から下級生に指導しながら伝承する活動  
（9年生のリーダーを中心として、4～9年生の全児童生徒が協力して練習に取り組む）（練習2時間 × 4回）
- 郷土芸能保存会3団体の協力のもと、全職員体制で練習に取り組む（夜練習あり）



# 鄉土芸能傳承活動 練習風景



# 郷土芸能伝承活動 練習風景



# 郷土芸能発表会 当日

- 体育館にて実施。地域に公開。
- 来場者数約250名。
- 1～9年生の全児童生徒参加。
- 3年生児童による発表もあり。



詳しくはビデオをご覧ください！！



# 地域のみなさんからの感想①

★3年生の発表で、知らないことを沢山知り、勉強になりました。楽しい時間でした。踊りもすばらしかったです。

★本当に感心します。毎年の練習の成果が出て大変よかったです。芸能に対する子供たちの姿勢に感動しました。

★鳥肌が立ちました。感動をありがとうございました

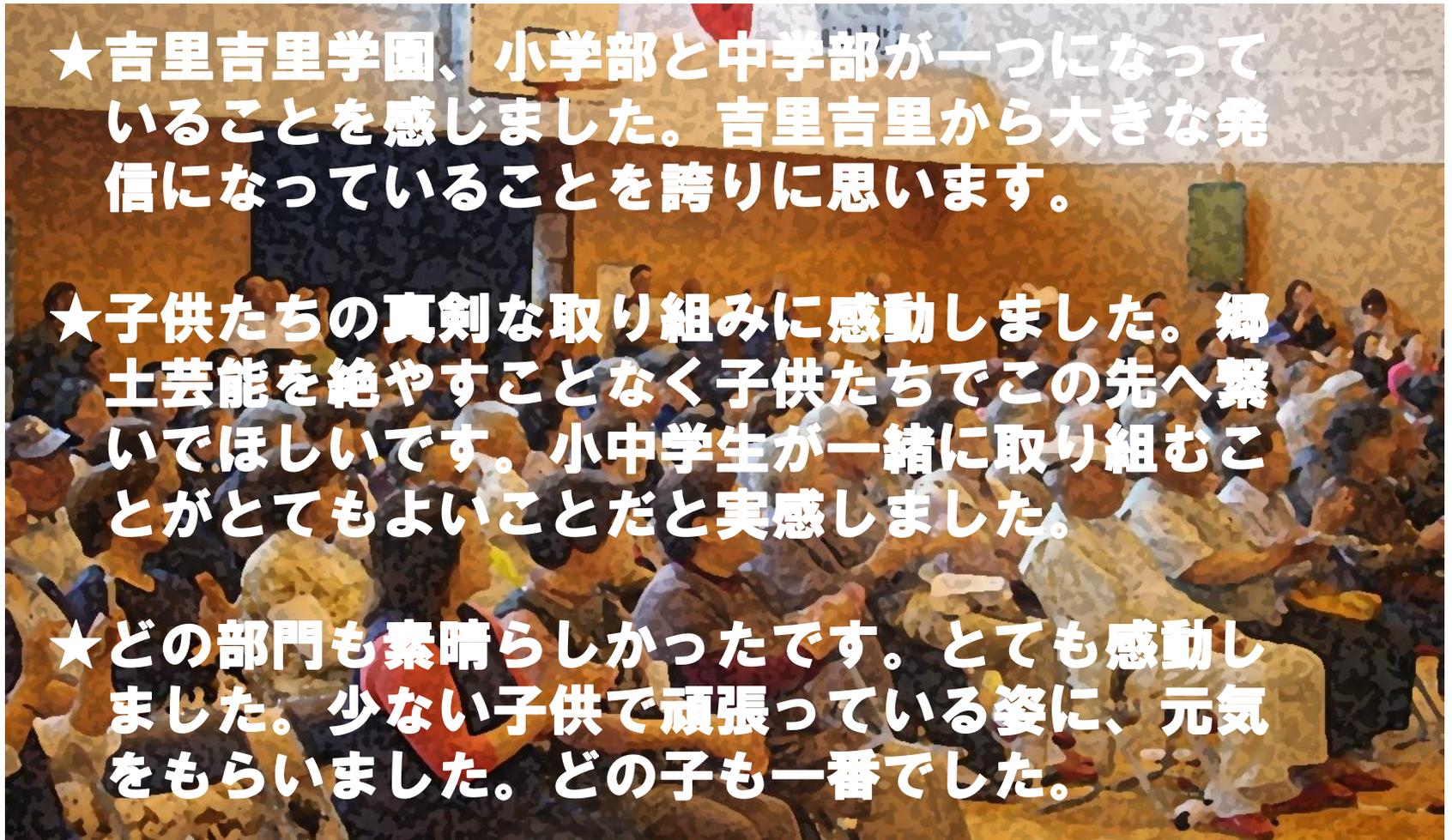


## 地域のみなさんからの感想②

★吉里吉里学園、小学部と中学部が一つになっていることを感じました。吉里吉里から大きな発信になっていることを誇りに思います。

★子供たちの真剣な取り組みに感動しました。郷土芸能を絶やすことなく子供たちでこの先へ繋いでほしいです。小中学生が一緒に取り組むことがとてもよいことだと実感しました。

★どの部門も素晴らしいかったです。とても感動しました。少ない子供で頑張っている姿に、元気をもらいました。どの子も一番でした。



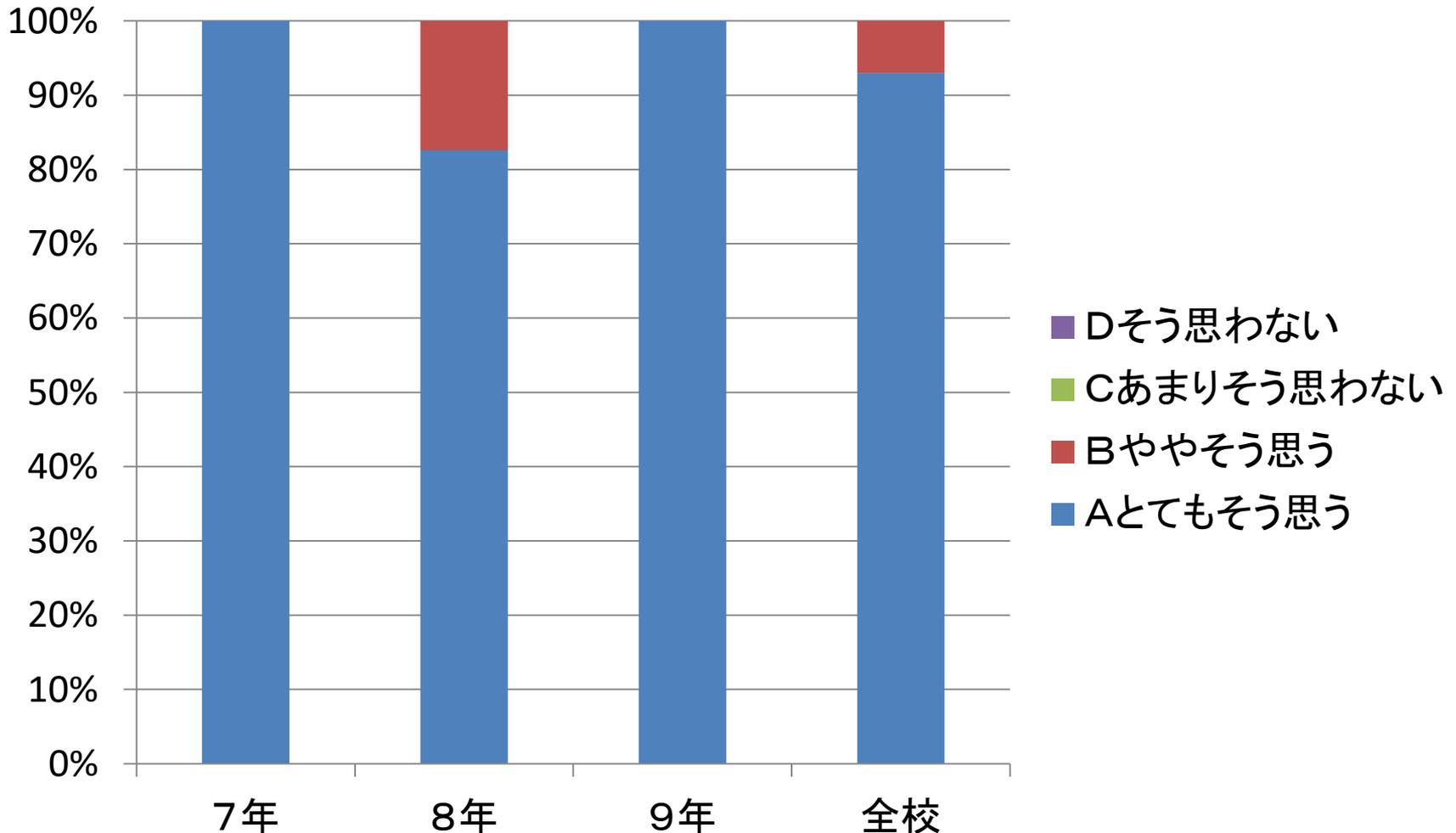
# 生徒の個人反省(振り返り)

## 郷土芸能伝承活動 振り返り用紙

グループ 鹿子	吉里吉里学園 小学部 (中学部)	9年	氏名
1 これまでの活動をふり返って自己評価してみましょう。			
(1) 郷土芸能に関心をもって取り組むことができたか。		(A)	B C
(2) 自分の課題を克服しようと意欲的に取り組むことができたか。		(A)	B C
(3) みんなと楽しく取り組むことができたか。		(A)	B C
(4) 活動の目的を理解し、互いに教え合いながら活動ができたか。		(A)	B C
2 今回の活動でがんばったこと、できたことは何ですか。			
<p>自分がよく踊ることだけでなく、小学生にも教えるのははらばらという立場で、教えることの難しさがわかった。長い間鹿子を続けている自分が当たり前のようにできる動きが、できない初めての小学生にどう教えるらいいのかわからなくて、とても難しく感じたけど、教えることが楽しいと感じることができた。去年より踊り方が多く、初回着せいのときに、みんな踊れるようになってよかった。</p>			
3 これから改善したいことや、できるようにしたいことは何ですか。			
<p>準備のスピードが遅いこと、自分だけでなく、他の中学生も自分の衣装を着たり、頭をかぶったり、できるような話、アヒルいあは踊りの踊りの踊り部分、一回腰が低くなって、もうまた起す上が。アヒルいあは、常に低い姿勢をいらいらするようになってきた。</p>			
4 取り組みの感想や郷土芸能への思いを自由に書いて下さい。			
<p>改めて郷土芸能が大好きになりました。 今年の祭りは、出かける最後の祭りが楽しかった。 いっほい練習して、もっと郷土芸能が大好きになりました。</p>			

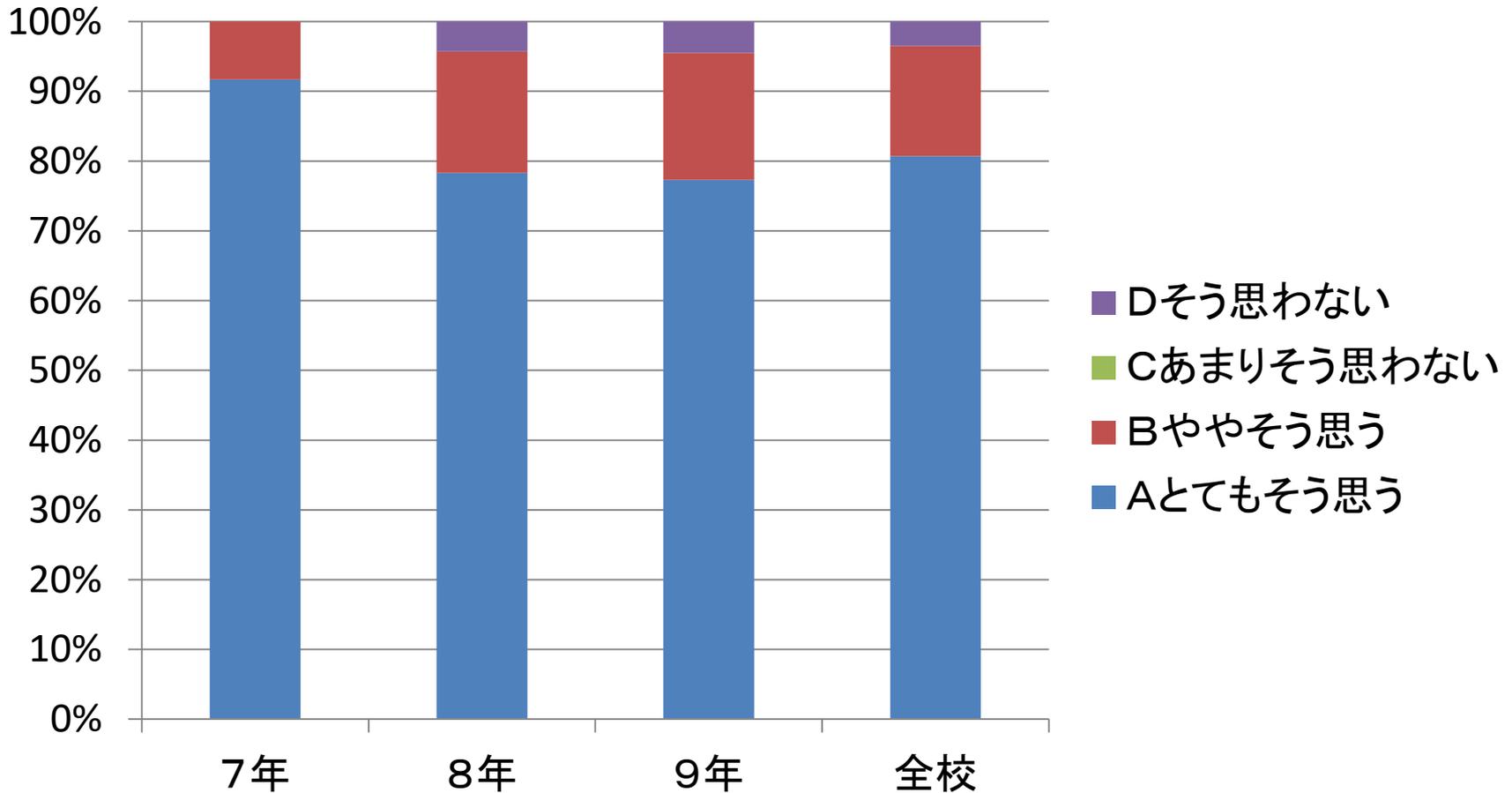
# 学校まなびフェストの生徒アンケート結果①

【郷土愛】ふるさと科の学習に積極的に取り組み、地域の良さに目を向けることができた。



# 学校まなびフェストの生徒アンケート結果②

【郷土愛】ふるさと科の学習を通して、自分の地域のために何かを頑張りたいと思った



# 生徒アンケート結果からの考察 成果と課題

## 【考察】

質問①②の結果から、生徒の多くは、地域の郷土芸能を通して、達成感を味わい、地域のために郷土芸能を伝承することや何かを頑張りたいと考えていることがわかった。

## 【成果と課題】

### ○成果

- 1 郷土芸能伝承活動を通して、ねらいの郷土を大切にすることをできた。
- 2 郷土芸能保存会や講中からの指導を受け、上級生が下級生にアドバイスをする等、郷土芸能の伝承に熱心に取り組む生徒が増えた。
- 3 発表会では、地域に郷土芸能を発信し、地域に元気や勇気を与えることができた。

### ●課題

児童生徒の減少により、各グループの人数の偏りや役割分担で苦労したところもあった。

# 防災教育 ・ 避難訓練

《避難訓練1回目 6月16日(木)》

## 1 ねらい

延焼火災発生を想定し、次のねらいのもとに避難訓練を実施し、職員・生徒の防災 ・ 防火意識を向上させ、徹底させる。

- 【生徒】
- ① 避難方法を理解し、避難経路を確認する。
  - ② 通報 ・ 指示及び避難に当たったの留意に従い、敏速で安全な避難ができる。
  - ③ 指示された手順に従って整列し、人員の確認ができる。
- 【教職員】
- ① 出火場所から指揮班へ連絡する訓練。
  - ② 校内電話により、119番通報し、必要な情報を伝える119番通報訓練。
  - ③ 校内放送による避難誘導訓練。 各々の場所における最適避難誘導訓練。
  - ④ 責任者、指揮班の指示、命令訓練。

2 内容 「火災」を想定した避難訓練。 大槌消防署を呼んで教師の動きを確認と消火器、消火栓の使用の訓練。

3 その他 「吉里吉里 ・ 防災だより」の発行。

防災意識を高め、防災意識を身につけ、避難訓練 ・ 防災学習ををより中身の濃いものにしていく。

## 4 成果と課題

- ・ 成果 生徒は、避難方法を理解し、素早く行動できていた。
- ・ 課題 教職員は、マニュアル通りの動きであった為、消防署の方からご指導を受けた。

## 《避難訓練2回目 9月1日(木)》

### 1 ねらい

震度6の地震発生を想定し、次のねらいのもとに避難訓練(防災訓練)を実施し、職員・生徒の防災意識をさらに向上させ、徹底させる。

【生徒】 ① 緊急地震速報に対応した避難方法を学習し、主体的に実践することができる。

② 自分が今いるところでの避難体勢の確保と避難行動が適切にできる。

(初期対応訓練)

・ 緊急地震速報を聞き、自ら主体的に避難体勢の確保ができる。

→ 「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ、素早く身を寄せて安全を確保することができる。

(二次対応訓練)

・ その後の指示を聞き、落ち着いて、真剣に避難行動できる。

【教職員】 ① 緊急地震速報を使った避難訓練の初期対応の訓練において、生徒自らが主体的に行動できるようにする。

② 緊急地震速報を使った避難訓練の二次対応の訓練において、職員室にいる指揮班を中心にその時その場所にいる教職員で、瞬時の素早い役割分担・指示命令のもと、生徒の安全を迅速に確認できる体制をつくる。

(迅速に避難誘導ができるようにする)

## 2 実施時間

- ① 実施時間を生徒や教職員に予告せず実施する「**ブラインド訓練**」を基本の形とする。
- ② 心のサポート等、生徒への配慮事項として、実施時間は、次の3つのうちのいずれかとする。これを事前指導の中で伝える。
  - A 午前中の時間帯(1～4校時、又は10分休みの時間帯)  
※ 5. 6校時は行わない。
  - B 昼休みの時間帯
  - C 放課後の時間帯(部活動の時間帯)

## 3 心のサポートが必要な生徒への配慮事項

- ① 緊急地震速報等に不安・恐怖を覚える生徒への配慮事項として、本人が実施の時間帯を教えてほしいと希望する場合は、希望した本人にのみ、実施の時間帯を伝える。
- ② 避難訓練に参加できない場合は、避難訓練の前後の時間帯をスクールカウンセラーと一緒に相談室で過ごす。

## 4 内容 「地震」を想定し、緊急地震速報に対応した避難訓練。大槌町総務部危機管理室の方から「大槌町の防災システム」等について、講話。

## 5 その他 「吉里吉里・防災だより」の発行。

## 6 成果と課題

- ・ 成果 ブラインド訓練で、緊張感もあり、きちんと避難場所に移動できた。教職員もあわてず、対応していた。
- ・ 課題 緊急地震速報の音量調整がうまくできず、地震速報の話す内容等が聞きにくいことや不快を与える放送になってしまった。

# 復興教育副読本の効果的活用

年3回の避難訓練の前後に、復興教育副読本を効果的に活用し、「生命や心について考える(いきる)」「人や地域について考える(かかわる)」「防災や安全について考える(そなえる)」機会を設定した。(各学年、総合的な学習の時間 3時間分)

【1回目 6月16日(木)】

学年	単元 (内容)	価値項目
7学年	「災害時の情報と心理」 P58, 59	そなえる
8学年	「自前衣装で郷土芸能復活」 P35 「高らかに響け」 作文 P40, 41	かかわる
9学年	「応急手当の基本」 P68	そなえる

【2回目 9月7日(木)】

学年	単元 (内容)	価値項目
7学年	「できますゼッケン」 P38, 39	かかわる
8学年	「そのときー避難所になった高校で」 P34 「できますゼッケン」 P38, 39	かかわる
9学年	「そのときー避難所になった高校で」 P34	かかわる

【3回目 11月9日(水)】

学年	単元 (内容)	価値項目
7学年	「語り伝えよ」 作文 P26, 27	かかわる
8学年	「語り伝えよ」 作文 P26, 27 「地域の教訓を語り継ぐー奇跡の集落 吉浜」 P36	かかわる
9学年	「語り伝えよ」 作文 P26, 27	かかわる

- ・ 成果 どの学年も生徒の実態に応じて、復興教育副読本を効果的に活用できた。
- ・ 課題 副読本の活用については、どの単元(内容)をやるか、十分検討が必要である。また、生徒においては震災の写真、絵などを見ると非常に落ち着かなくなる生徒もいるので、十分なケアや配慮が必要である。

# 2学期 「防災週間」 ※8時間

## <ねらい>

- (1) 小学部、中学部で同時期に防災週間を設け、命を守る防災教育を学園全体で推進する。
- (2) 児童、生徒の防災意識の向上を図るとともに、1週間の中で組織的に防災教育に取り組むことにより、防災に関する知識と実践力を集中して身につける。



# 《防災週間の取り組み(流れ)》

	《中学部》	《小学部》
10月31日(月)	<p>「こころの授業」</p> <p>★講師 高橋先生スーパーバイザーによる語り継ぎ(表現活動)の授業。</p>	<p>「こころの授業」</p> <p>★講師 高橋先生スーパーバイザーによる授業。</p>
11月 2日(水)	<p>「応急手当講習会」</p> <p>★講師 大槌消防署 消防隊、救急隊 心肺蘇生法、AED、搬送法、止血法の講習。</p>	<p>「防災訓練」</p> <p>★講師 大槌消防署 消防隊 消火器訓練。</p>
11月 4日(金)	<p>「防災授業①」</p> <p>★講師 河田さん、岸本さんから防災について講演会。</p>	<p>「防災授業」</p> <p>★担任による副読本やDVDを使用しての授業。</p>
11月 5日(土)	<p>「小中合同避難訓練」</p> <p>★防災無線放送 朝8時 → 防御訓練を行い、各避難場所へ。</p> <p>「防災授業②」</p> <p>★講師 河田さん、岸本さんと質問や意見交流。</p>	<p>「小中合同避難訓練」</p> <p>★防災無線放送 朝8時 → 防御訓練を行い、各避難場所へ。</p>

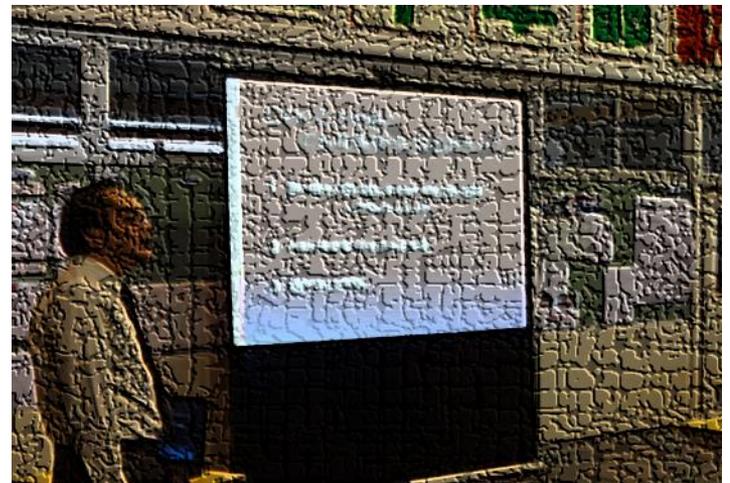
# 1日目 「こころの授業」

## <ねらい>

- (1) 語り継ぎ(表現活動)がこころのケアにつながることを知る。  
→ 「つらいこと・悲しいこと・いやなこと」を意味のあることに変容させる。
  - (2) 体験の記憶を積極的に表現し、それに向き合う。  
→ 記憶の整理、再意味づけ、認知の変容へとつながる。体験を抱えやすくし、自己肯定感や未来への展望を持ちやすくする。
- ★講師 高橋 哲先生(沿岸南部教育事務所担当スーパーバイザー 東日本大震災心理支援センター)

# 《こころの授業 生徒の感想・振り返り》

・防災のことよりも、被災にあった方々とのふれあい、そして、自分も経験したということを経験者として、被災した方々とどのように向き合っていかなければならないかという大切な事を今回の授業で真剣に学ぶことができた。(9年)



## 2日目 「応急手当講習会」

### 〈ねらい〉

- (1) 自然災害による傷害が火災発生時だけでなく、二次災害によって生じることから、傷害が発生した際の応急手当の知識や技能を身につける。
- (2) 災害時に、自ら判断し主体的に行動できる意欲や態度を育てる。

### 〈内容〉

- (1) 心肺蘇生法の意義と方法    AED(自動体外式除細動器)の使用法
- (2) 搬送法 ・ 止血法の意義と方法

★講師 大槌消防署 消防隊 救急隊

# 《応急手当講習会 生徒の感想・振り返り》

・心肺蘇生法は、今回は人形だったけど、もしかしたら人間でやらなければならないときがくるかもしれない。そういう気持ちで臨んだ。心肺蘇生法は簡単そうに見えてなかなか難しかった。(9年)

・心肺蘇生法で声を出すとき、ちょっと恥ずかしかったけど、しっかりやることができたのでよかった。(8年)

・傷を止めるやり方、心臓マッサージなど教わったので、忘れず、もし、このようなことが起きた場合、人を助けてあげたい。(7年)



# 3日目、4日目 「防災授業1」 『防災授業2』

〈ねらい〉

## (1)防災学習

- ①兵庫県立舞子高等学校 ・ 環境防災科の取り組み、人と防災未来センターの取り組み、子ども対象にした防災教育の取り組みから防災について学ぶ。
- ②心のケアと防災意識の向上をさらに図り、たくましく生きていこうとする力、前を向いて夢と希望を持っていこうとする力を育む。

## (2)生き方学習

- ①阪神大震災の被災者の方々のその後の生き方を通して、今の自分を見つめ、将来の生き方について考えさせる。
- ②阪神大震災後、さまざまな困難を乗り越えて、防災 ・ ボランティア関係の道を志し、その後、その道で精力的に活動している方々の生き方に学ぶ。

- ★講師 河田のどかさん (兵庫県立舞子高校環境防災科 第2期卒業生)  
NPO法人さくらネット 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」事務局 防災 ・ 減災教育担当
- 岸本くるみさん (兵庫県立舞子高校環境防災科 第1期卒業生)  
神戸市 人と防災未来センター資料室専門員

# 《防災授業① 生徒の感想・振り返り》

・今まで防災について、「自分の命」を守るものだと思って、いろいろ学んできたが、今回、河田さんの話を聞いて「自分の大切な人」や「誰か」のために守ることも必要だということを知った。

(9年)

・河田さんも震災の時、私たちと同じくらいで同じような体験をしていたことを聞いて私たちだけではないんだなと感じた。また、河田さんは震災のことを知りたくて舞子高校に入ったのはすごいと思った。私も河田さんのように周りのためになるような活動をして、防災について改めて考えようと思った。

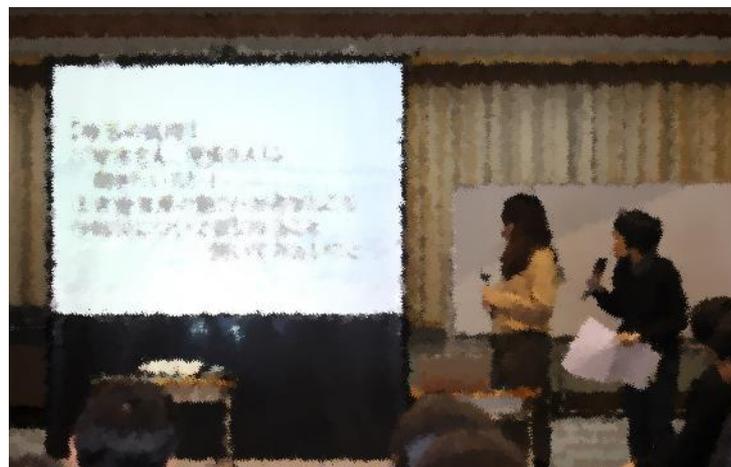
(9年)



## 《防災授業② 生徒の感想・振り返り》

・河田さんと岸本さんの話を聞いて、防災について考えることもできたが、ふるさとについても考えさせられた。私たち中学生はふるさとの吉里吉里のためにどんなことができるか、またどのようにして吉里吉里と関わっていけるか考えた。答えはまだ見つけだせていないが、ころからも吉里吉里に住む一員として関わっていきたい。(9年)

・河田さんと岸本さんの話を聞いて、東日本大震災の時の自分の気持ちと重なっている部分があって、多くの人が悲しいやつらいという気持ちを乗り越えてきたのだと感じた。これからいつ起こるかわからない震災でそれぞれの命を守るには、もっと防災について深く考える必要があるのだと思った。(8年)



# 4日目 「小中合同避難訓練」

## 〈ねらい〉

登校時間中の大地震発生を想定し、次のねらいのもとに避難訓練を実施し、職員

- ・ 児童生徒の防災意識を向上させ、徹底させる。
  - (1) 登校時間中の避難経路を確認する。
  - (2) 登校時間中の通学路における避難場所を確認する。
  - (3) 各自の状況に応じ敏速で安全な避難ができる。

## 〈実施内容〉

- (1) 緊急地震速報が発表され、震度6弱の地震が発生した場合を想定して行う。
- (2) 朝8:00に大地震が発生した想定により、通学路における登校途中から、最寄りの避難場所に避難する。

## 《小中合同避難訓練 生徒の感想・振り返り》

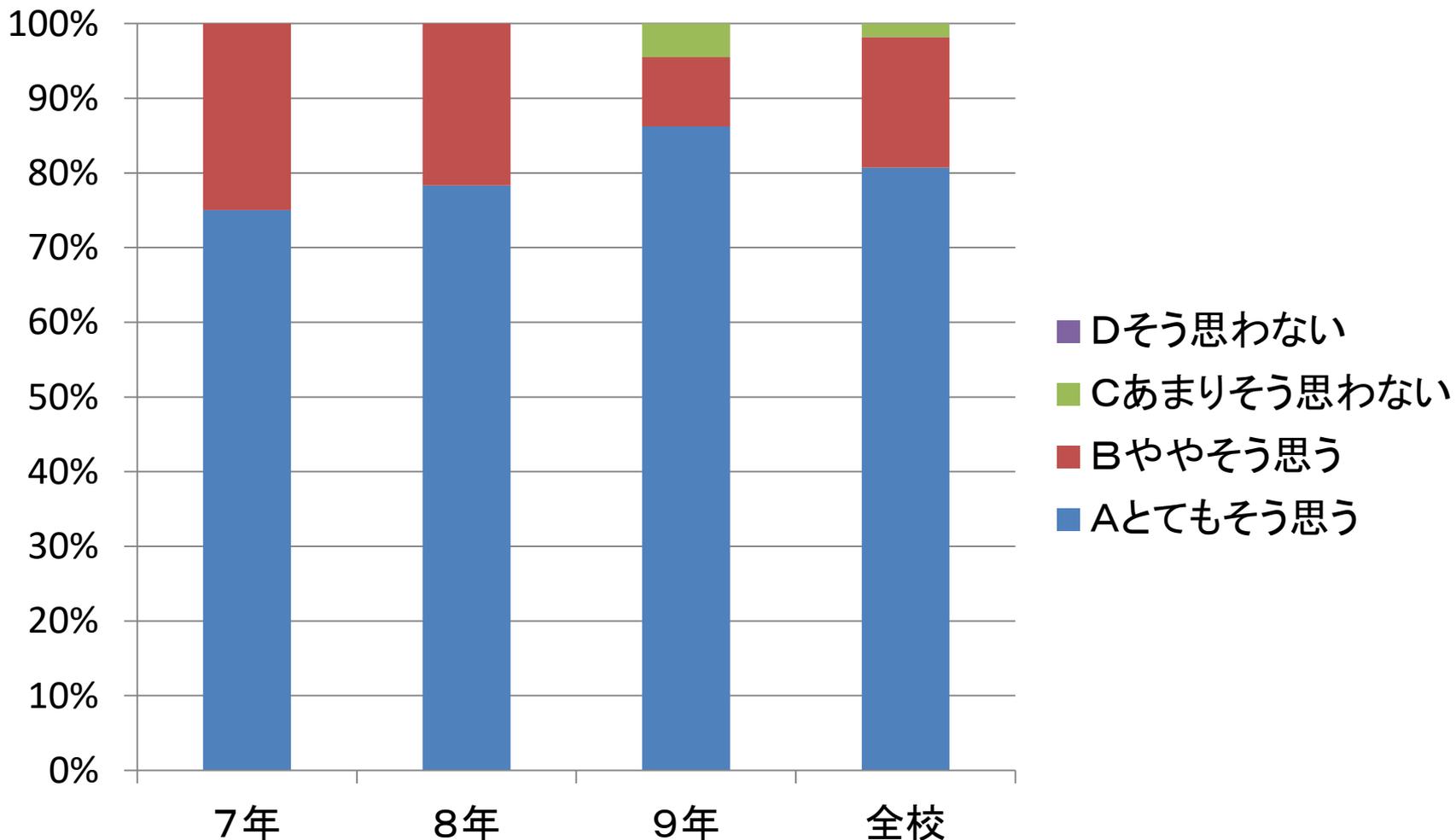
・僕は小学校に避難して、中学生が3人しかいない状況の中でリーダーシップをとり、小学生をまとめることができた。また、今日の避難訓練を通して防災への意識がとても高まったと思う。(9年)

・僕は地区公民館へ避難して人数が約30人でかなり多かったが、9年生の指示を聞いてすばやく整列することができ、また真剣に取り組めた。(7年)



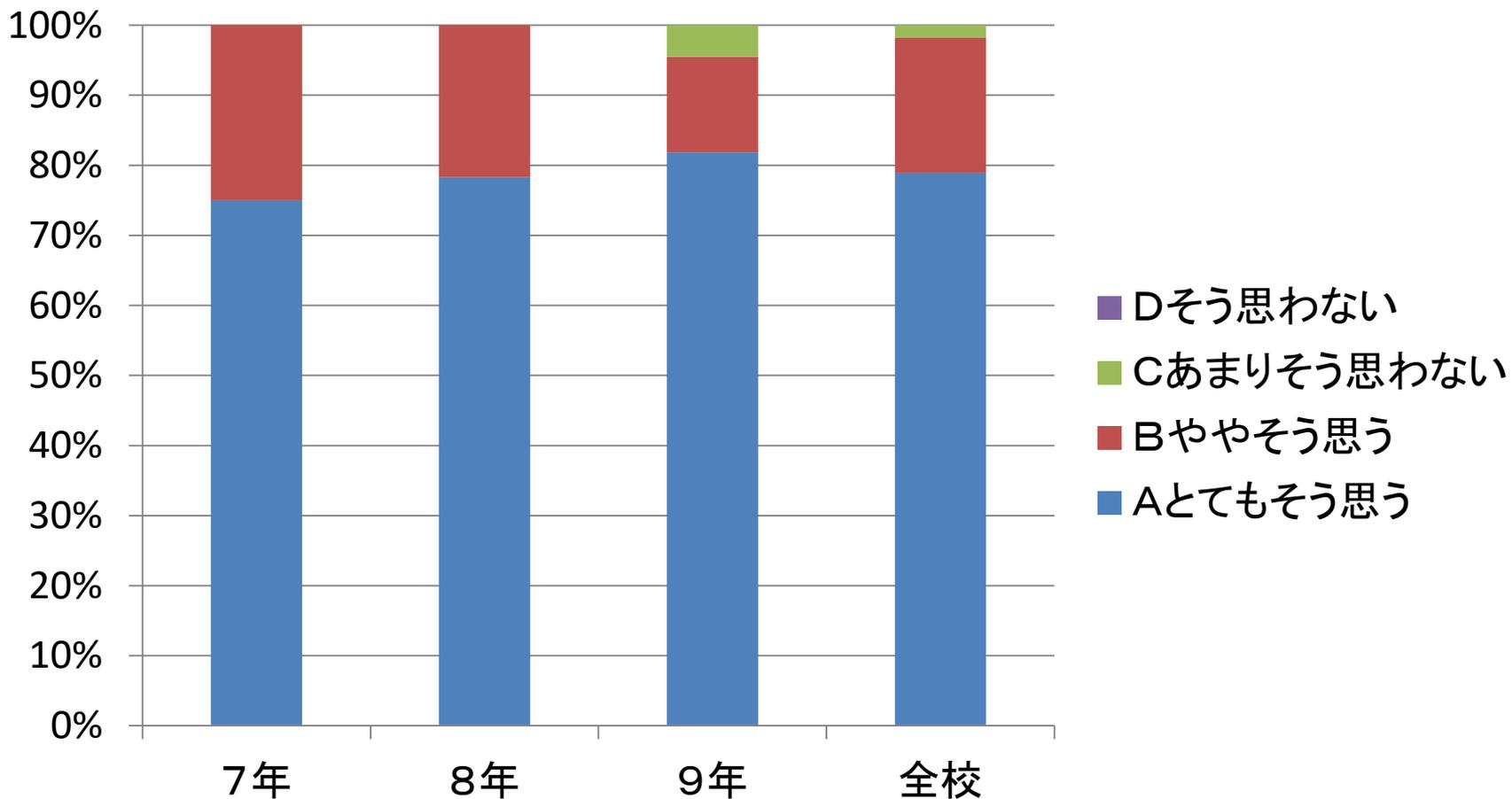
# 学校まなびフェストの生徒アンケート結果①

【郷土愛】避難訓練や防災週間などの防災学習に、危機意識を持って真剣に取り組み、防災の知識を身につけることができた。



# 学校まなびフェストの生徒アンケート結果②

【郷土愛】避難訓練や防災週間などの防災学習を通して、主体的に判断し、行動できるようになろうと努力した。



# 生徒アンケート結果からの考察 成果と課題

## 【考察】

質問①②の結果から、生徒の多くは、避難訓練や防災週間を通して、防災に対する知識を身につけ、また、防災について意識の向上も見られた。

## 【成果と課題】

### ○成果

- 1 防災週間のねらいをきちんと定めたこと、また、「防災週間だより」の発行をし、生徒や保護者に周知徹底できた。
- 2 防災週間の内容を吟味し、生徒の感想 ・ 振り返りをしっかりすることができた。

### ●課題

ねらいに沿った内容を吟味すること。誰を講師として招聘するのか、今後の課題である。

# 3学期 「PTAワカメ体験学習」

## 〈PTAワカメ体験学習のねらい〉

(1) 郷土理解を推進するため、地域教材(ワカメ)を活用しながら、学校、保護者、地域の力を結集し、体験的な学習を実施する。

(2) 生徒たちに、ワカメの製品化や9年生時の修学旅行での販売など、豊かな体験の場を提供する(モノづくりの喜び、起業の喜び等)。

(3) 販売によって得た収益金を、生徒の教育のために生かしていく。

### 三陸産いわてわかめ 産地の紹介



● 吉里吉里漁港

関係漁協名:大槌町漁業協同組合

#### 概要

吉里吉里の名はアイヌ語で「白い砂」と解されているが、本港の歴史は慶長3年(1598年)前川善兵衛が千石船でワカメ、サケ等を交易したことに始まる。昭和9年に国策事業として漁港整備に着手し、昭和38年には第2種漁港への格上げとともに改修事業に採択され港の整備拡充を図ってきた。現在は、つくり育てる漁業の進展とともに沿岸漁業及び養殖業の根拠港として重要な役割を担っている。



#### 港勢

地区人口等(人)

地区人口	組合員数			経営体数
	総数	正組合員	準組合員	

## 〈内容〉

### □2月23日(火)7、8年生事前学習

- ・岩手県沿岸広域振興局水産部  
水産業普及指導員をお招きしての  
水産教室を実施。
- ・ワカメの一生、ワカメの生育環境、ワカメの  
養殖方法、ワカメの加工作業工程。



### □2月27日(土) PTAワカメ体験学習当日

〈早朝～お昼過ぎ〉

- ・PTAによるワカメ刈り取り作業。
- ・生徒、保護者によるワカメボイル作業、塩蔵作業。

### □2月29日(月)～3月4日(金) 製品加工作業

- ・芯裂き作業、選別作業、袋詰め作業。生徒の作業は放課後。  
PTAの作業協力は夜。地域の方々も作業に参加。
- ・ワカメ製品袋ラベル、修学旅行用の宣伝用動画等を生徒が作成。  
4月の9年生の東京修学旅行等でワカメを販売。  
地域にも販売。約600袋販売。

# PTAワカメ体験学習

6年ぶりの復活!!

平成28年2月27日(土) 吉里吉里漁港にて



**PTAワカメ体験学習**

**刈り取り作業**

**PTAのお父さん方との連携・協働**



**PTAワカメ体験学習**

**ボイル作業**

**漁師・漁協・地域のみなさんとの連携・協働**



# PTAワカメ体験学習

# 塩蔵作業

漁師・漁協・地域のみなさんとの連携・協働



# PTAワカメ体験学習

# ワカメ芯裂き作業



# PTAワカメ体験学習

# ワカメ袋詰め作業



# PTAワカメ体験学習

# 三陸復興ワカメ完成



# 「ふるさと科」の学習活動の成果

## 〈成果〉

- (1) 郷土芸能伝承活動には、生徒たちは非常に意欲的に取り組む。  
それにより、郷土芸能や吉里吉里のことが好きになった生徒たちが増えただけでなく、郷土芸能が盛大に行われる**8月の吉里吉里地区祭や年間を通して地域の郷土芸能活動に参加する生徒が増えた。**
- (2) 防災週間など、ふるさと科を通して、各関係機関と連携し組織的に防災教育に取り組むことにより、幅広い角度からの防災教育が行うことができる。避難訓練(防災訓練)や岩手の復興教育副読本の活用と併せて、年間を通じて計画的に防災教育に取り組んでおり、**生徒たちには震災と向き合える力、困難を乗り越えていく力等が少しずつ身につけてきている。**
- (3) 昨年度、6年ぶりにワカメ体験学習を再開することができ、当日は多くのPTA会員や地域の方々が参加した。生徒たちの生き生きと学習に取り組む姿、地域の方々の笑顔が多く見られ、生徒(学校)のためだけでなく、**地域のためにもなる(地域も元気になる)**学習をふるさと科を通して行うことができ、ふるさと科でねらう姿をワカメ体験学習の中で実際に見ることができた。

# 「ふるさと科」の学習活動の課題

## 〈課題〉

- (1) 生徒数、保護者数は減少傾向をたどっている。その状況の中で、**予算的にも作業的にも負担感を感じることなく**、生徒も保護者も地域の方々も共にワカメ体験学習に継続して前向きに取り組んでいける体制をつくっていくことが課題である。
- (2) 教職員は毎年入れ替わり、震災を経験しない教職員がほとんどとなっている。**積み重ねてきたものを継承し継続していく**とともに、生徒の実態や変容に併せて、「ふるさと科(復興教育)」をどのように進化させていくか、**チーム学校としてさらにどのように体系的に取り組んでいく**か等が問われてくる。
- (3) 郷土芸能伝承活動等、ふるさと科を継続していくためには、**予算的なバックアップが必要不可欠**である。(講師謝金、学校支援地域コーディネーターの恒久的な配置のための予算確保等)又、**行政と学校と地域が一つ**になってふるさと科の取り組みを広げていくことが今後さらに重要になってくる。
- (4) ふるさと科(復興教育)の推進は、**学校と地域のさらなる協働**なくしてできない。

# 終わりに

## 《感想》

「ふるさと科」の学習を通して、子どもたちの生き生きと取り組む姿を見れて、この上なく幸せです。

これからの担う子どもたちのために、本校だけでなく、町全体で一つになり、「ふるさと科」の学習をさらにより良いものにしていきたいと思います。

また、今後も子どもたちのためになる活動を教職員・保護者・地域が一体となり進めていきたいと思います。

※ ご清聴、ありがとうございました。

